

棚田に吹く風

2009年
12月号
Vol.68
隔月刊

特集 東京棚田フェスティバル 開催 「話」をテーマにたくさんの「わ」が生まれました



棚田に吹く風 12月号 目次

4

シリーズ

棚田・里山からのたより

兵庫県多可町 岩座神棚田

岩座神棚田保全推進協議会の活動

6

連載

榎原の稲作日記

ブック&ムービーレビュー

7

青柳健二の

「世界の棚田から」

田んぼの生き物たち

8

棚田博士は今日も行く

広島県東広島市

「内の棚田」

10

情報交換&研修会レポート

11

棚田ネットワーク

Project & Topics

今回の表紙

「第4回東京棚田フェスティバル」

11月14日、東京の青山にて開催。写真は、山形県朝日町の榎平棚田のブース。自慢の棚田米や、特産のリンゴ、ラフランス、そして黄色いハッピー姿！ととても賑やかです！

(2〜3Pは棚田フェスティバルの特集です)

特集 東京棚田フェスティバル 開催

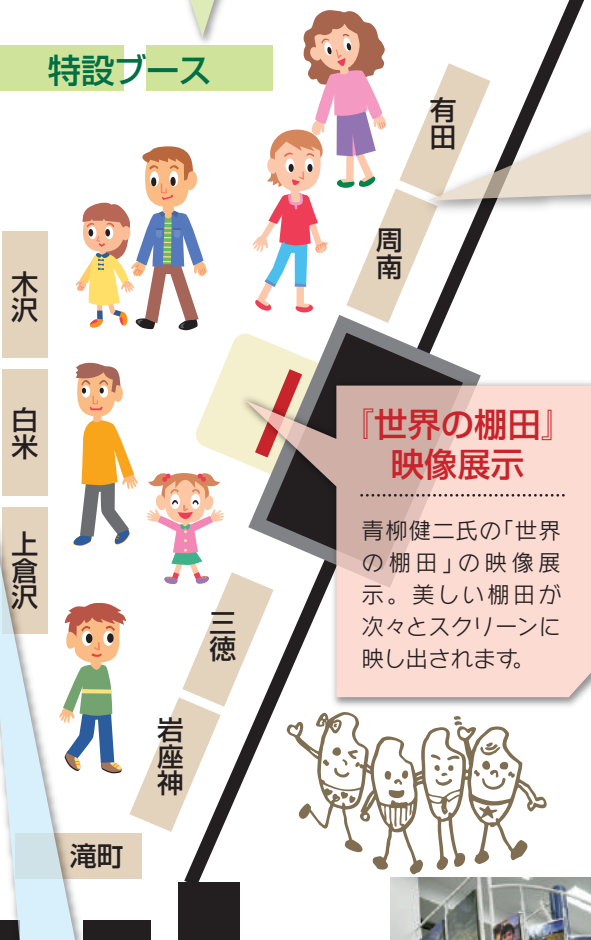
「話」をテーマにたくさんの「わ」が生まれました。

特設ブースコーナー

2010年10月に静岡県松崎町石部棚田で開催される「棚田サミット」のPRのほか、静岡県で活動している「しずおか棚田・里地くらぶ」、新潟・松之山からは「森の学校キョロロ」さんにご出展いただきました。

11月14日、東京・青山の「スタジアムプレイス 青山」で、今年で第4回となる「東京棚田フェスティバル」が行われました。全国の棚田地域から多くの方々にお越しいただき、棚田のPR、お米や地域の特産品販売などを展開。さらにはトークセッションや講演、写真展、棚田米の試食コーナーなど、盛りだくさんの内容で賑わいました。

特設ブース



『世界の棚田』映像展示

青柳健二氏の「世界の棚田」の映像展示。美しい棚田が次々とスクリーンに映し出されます。

まもりびとと話してみよう コーナー

棚田オーナー制度、棚田米販売、グリーンツーリズムなど、各地域の棚田のまもりびとたちが思い思いにPR。同時に特産物の販売なども行われ、来場者の皆さんはそれぞれにまもりびととの交流を楽しんでいました。

出展団体

- 新潟県川口町 木沢棚田保全連絡協議会
- 石川県輪島市 白米千枚田愛耕会
- 静岡県菊川市 上倉沢棚田保全推進委員会
- 岐阜県高山市 滝町棚田保存会
- 兵庫県多可町 岩座神棚田保全推進協議会
- 鳥取県三朝町 三徳地域協議会田舎体験ツーリズム部
- 山口県周南市 棚田清流の会
- 佐賀県有田町 有田町棚田保全協議会

青柳 健二氏 写真展示

写真家・青柳健二氏の「世界の棚田」の写真を、螺旋階段を取り巻くように展示。来場者はその美しい写真に思わず足を止めて見入っていました。



棚田のまもりびとに聞きました

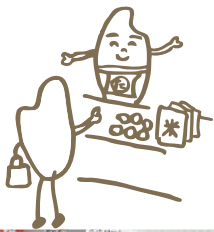
木沢棚田保全連絡協議会 会長 平澤 勝幸 さん

私たちの棚田のある新潟県川口町は、中越地震の震源地にあたります。昨年から棚田オーナー制度を開始しました。今後は、地域の行事などに合わせて、年間を通して交流プログラムを企画していきたいですね。来年早々には「冬ごもり体験」も予定しているんですよ！



今年の棚田ネットワーク調査プロジェクトの訪問地10団体の中から、8地域が趣向を凝らして出展しました。新潟県川口町木沢棚田保存会ブースでは、わらじや竹細工、カラフルに染め上げた草木染めの布巾など、たくさんの民芸品が並びました。(左側下の写真)





蕨野や池谷の棚田米、大山千枚田の棚田酒、坂折の棚田餅、樺平のリンゴなどお馴染みの物産と、棚フェスには欠かせないあの人この人。保存会のお母さん達も大活躍。



地域特産品・棚田米販売・PRコーナー

昨年の棚フェスに参加したお馴染みの保存会7団体が、今年も盛り上げ役として元気に出展してくれました。たくさんの物産が並び、最もにぎやかなコーナーでした。

出展団体

- 山形県朝日町 樺平棚田保全活動推進委員会
- 千葉県鴨川市 特定非営利活動法人 大山千枚田保存会
- 新潟県十日町市・池谷 十日町市地域おこし実行委員会
- 新潟県十日町市・松代 まつだい棚田バンク
- 静岡県松崎町 石部地区棚田保全推進委員会
- 岐阜県恵那市 特定非営利活動法人 恵那市坂折棚田保存会
- 佐賀県唐津市 特定非営利活動法人 蕨野の棚田を守る会

棚田のまもりびとに聞きました

石部地区棚田保全推進委員会 会長 高橋 周蔵 さん

来年のサミットに向けて、松崎町と協力しながら、準備を進めています。今後、保全を継続していくには、地域の皆さんの協力も不可欠。自治体、地域の方々と意識を共有し、若者にも「がんばらなきゃな」と思ってもらえるような環境づくりをして行きたい。棚田に隣接する小学校の再利用や海山を活用した体験プログラムなども企画して、交流人口をもっと増やしたいですね。

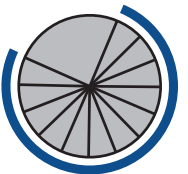


地域特産品・棚田米販売・PRコーナー

樺平・鴨川・池谷・松代・石部・恵那・蕨野



青柳健二氏
写真展示



書籍展示
アンケート
コーナー



棚田ネット
棚田米販売
コーナー

映像
受付

棚田米 販売・試食コーナー

恒例の全国の棚田米販売は、パッケージもリニューアルし「棚田応援米」として12箇所。棚田米試食コーナーは、岩座神、三徳、周南、有田の4地域の新米を一皿に！

入場口



特設ステージ

特設ステージでは、安井一臣さんの「棚田に暮らす生き物たち」、中島代表の「すばらしき棚田の世界」、棚田一郎さんの「日本の棚田おもしろ話」、青柳健二さんの「世界の棚田」の4つのトーク&スライドショーと、メインイベントのトークセッション「みんなで話そう『棚田のこれから』」が、盛りだくさんの内容で開催されました。

写真上のトークセッションでは、木沢棚田、滝町棚田、白米千枚田の保存会代表と、都市側代表としてボランティア活動をする若い女性陣が対決？ 女性ならではのアイデアとして、棚田でお見合いイベントなどの提案も出ました。



岩座神棚田保全推進協議会の活動

兵庫県多可町 岩座神棚田

いさりがみ 岩座神地区の概要

岩座神は兵庫県のほぼ中央部、東播磨の最高峰千ヶ峰（標高1005メートル）の山麓（標高300〜400メートル）に位置し、周りを緑深い杉や桧木の植林におおわれ、隠れたような小さな集落です。段差の急な石垣積みの棚田を中心に20戸の農家が点在しています。棚田の石垣の中には700年くらい前に築かれたといわれるものもあり、長い年月をかけ積み上げてきた歴史を感じさせる農山村地域です。

棚田オーナー制へのストーリー

昭和60年、その頃20代、30代の若者11名で「仁王会」という会を作りました。作った当時は2ヶ月に一度、持ちまわりで自宅でお酒を飲んで雑談する親睦会でした。当時、岩座神のすぐ下の集落の棚釜部落では圃場整備が終わって、1区画3反の圃場ができました。我々にとっては大変うらやましく、仁王会では寄るとさわるとその話になりました。この岩座神の棚田も出来ないだろうか？何とかしたいとい

う話になり、一度同じような地域の視察に行こうではないかと話がまとまり、旧加美町役場に相談して、隣の神崎郡猪俣地区という集落を視察しました。しかし、現地は土手がひどく高く、これでは…という事で帰って来ました。

それでも何とか岩座神でも出来ないかと役場に相談し、検討を依頼しました。その結果、岩座神では水田が現状より大幅に狭くなり、その上大変広い土手になる。田の面積が少なくなるのも困るが、それ以上に土手のもり（草刈りや荒れて崩れる）が大変であると解りました。

岩座神には村で守をする村山があります。当時、杉や桧木は植林後10年までの山が多く、年に2日は夏の下刈りの出役がありました。その上圃場整備して田が少なくなると土手の草刈りまで増すと、いままでは以上に村人の負担が多く、圃場整備をあきらめるしかないとの事になりました。それで現在に至り、棚田が残りしました。

それでもこのままではいけない、何とかしなければと寄る機会があるたび話題にのぼりましたが、10〜15年間そのまま過

ぎ、平成5年に高知県で開催された第一回棚田サミットに参加しました。当時の区長、農会長、役場職員が共に参加し体験談を聞く機会に恵まれました。それをふまえ、平成8年に地区の村づくりの基盤となる、また都市との交流のパイプ役を果たすための中心となる「棚田保存会」を結成、棚田の活用と保全についての施策の検討を行いました。そして棚田保全のため行う事業の一つとして棚田オーナー制度への取り組みを決定しました。しかし、当時賛成する人達ばかりではなく、理解してもらったための説明を繰り返ししました。ようやく形も整い期待を込めて棚田オーナー制度がスタートしました。

棚田オーナー制度の現状

平成8年、旧加美町役場の産業課の協力を得て複数の新聞社に記事を掲載してもらい、オーナーを募りました。1年目10区画募集、思った以上の反響で審査に苦労する程でした。当選者は大阪住吉、神戸、加古川、姫路、高砂等遠方からの参加が多くありました。

2年目20区画に増して現在に至っています。(参加日程は下記表を参照)

特産品開発も

棚田オーナー制度に並行して、休耕田でのソバ栽培を始めました。婦人会、老人会の有志で畑わさびも栽培して、畑わさびの

しょうゆ漬け、岩座神そば利用のそばクッキー、マクラ等の特産品も開発しました。今年で13年が経過しましたが、決して順風ばかりではありませんでした。難局のたび、試行錯誤でやってきました。これから、衰退していくばかりではないよう、何とか保存会一同頑張っていくつもりです。それには、棚田ネットワークのスタッフの皆様、色々な企業のボランティアのお力添えが、いかに心強いかに思いました。今後の課題は超高齢化となるこの地区で、いかに棚田や村自体を守っていくのかです。オーナー制度、ボランティアを有効に生かせるような色々模索中です。

〔岩座神棚田保全推進協議会 安田利幸〕



田園風景が広がる多可町。中でも加美区岩座神集落には石垣のある棚田(日本の棚田百選のひとつ)が残っています。懐かしくも不思議な風景を生かし、平成9年、景観保全と都市住民との交流を目的として県内初の棚田オーナー制度を導入。田植え祭やかかし祭、刈り取り後の田んぼでコンサートなど、多くのイベントも行われ、都市との交流が進められています。

また、多可町は、日本の酒米『山田錦』発祥のまち、日本一の手すき和紙『杉原紙』のまち、『敬老の日』発祥のまちとしても有名です。

■ 棚田へのアクセス

【自家用車】 中国自動車道・滝野社ICを下りて右折、国道175号へ→斜め左に折れて県道294号へ→和布南(交差点)を左折して県道347号へ→和布町(交差点)を右折して県道54号へ→上野(交差点)を直進して国道427号へ→JA加美(交差点)を左折→右手に町立松井小学校を見ながら右折し五霊神社を目指す。

【公共交通】 JR西脇市駅より神姫バス鳥羽上・山口方面→加美町農協前下車、徒歩30分

■ お問い合わせ

〔岩座神棚田保全推進協議会〕
☎0795-35-0953 安田さん

オーナーの参加日程

4月 対面式(入会金持参) 区画の抽選	看板立て(それぞれ自分の区画に、名前やイラストを書き入れる)。接待はお茶のみ。
5月 第3日曜 田植え祭り	コシヒカリの苗をオーナーが手植え、接待(田植え終了後の昼食)は婦人会で鶏肉、竹の子等のまぜごはんのバック詰め、酒、ジュース、お茶で村人と共に交流。村人は一家に1~2名参加。
6月 肥料撒き、石垣の草刈り	接待はなし。
7月 第4日曜 案山子祭り	案山子作り、草刈り、肥料撒き。作業終了後、村人と交流。接待は会費制(大人1000円、子供500円)。カレー、アマゴの塩焼き、加美区特産若鶏の炭火焼き、酒、ジュース、お茶。
9月 第3日曜 稲刈り	オーナーが稲刈りして束にしたものを稲木にかけ天日干しにします。今年から接待はお茶のみ。(昨年までは、大がかりな棚田コンサートをしていました。接待は婦人会によるまぜごはんのバック詰め、焼きそばの販売をしました。)
10月 第2日曜 収穫祭 (雨天の場合順延)	それぞれの田で機械で脱穀、乾燥機に入れ、もみすり(この工程は村人で)。一週間後オーナーの手に届ける。接待は婦人会による新米のおにぎり、豚汁(地区産里いも等使用)、持ち寄りの漬物、酒、ジュース、お茶。案山子の出来映えの人気投票(賞品は、新米、有精卵)。
12月 第3日曜 もちつき大会、ぐ縄作り	オーナーに一升分の餅を持って帰ってもらう。
1月 ソバ打ち大会	ソバ打ち名人に依頼、ソバ打ちを指導してもらい、オーナーと村人が交流。

以上の行事で1年をしめくります。

- 年会費 5万円(1オーナー参加人数制限なし)
- 提供する物 米30kg以上
1年に1回、加美区内の宿泊施設で利用料の5000円補助
地区特産品10,000円分(3回に分けて発送)

棚田百選

榎原の稲作日記

徳島県上勝町
榎原の棚田村

第五回 「異常」が「通常」に

先号で「夏の成熟期を待たず秋を迎えた、今年の稲」と紹介したが、量的にはまあまあ、反当り2・5石強の収穫だった。榎原の稲作は全戸が「ハデ干し」「ハサ干し」であるが、脱穀後、乾燥機にかけて籾摺りをする。私は乾燥機を持っていないので、脱穀後も籾干しで天日乾燥する。今年は好天に恵まれていたので1日籾に広げただけで、水分15%に仕上がった。

お米は熱を加えれば加える程、味が落ちて行く。コンバインで刈り「生扱き」して乾燥機で熱をかけて...等をすれば、お米の味はどんどん落ちて行く。精米も、精米機で高速で精米するのではなく、水車で時間をかけて搗くと味が落ちない。水車小屋での精米も少しやってみたが、谷の水量が少なく不可能になった。

近年、気候が「ムラ気」になったと初めにも書いた。今年は「夏」が無く、11月11日には県内で気象台始まって以来の時間雨量44mm等が三ヶ所あったが、台風銀座の榎原では何事もなかった。なにしろ30数年前、2時間で190mmの大雨には驚かされたが、人命に大害なく怪我人もいなかった。しかし、大雨洪水警報がでないまま冬になるかと思えば、11月になっての警報発令には驚かされた。「異常」が「通常」になってきたのだ。

1813年の絵図面のおりの榎原の棚田や農家、耕作道や山神さん等がそのままの姿で有り、それを文化財にと、7月に文化庁に申請書を出した。その中に耕作放棄地もあり、草刈りをしようと11月22日に予定している。当日は雨降りのようだが実施するつもりだ。柿の実が一つ、「木守り」が残っている。

上／棚田一面にハデ干し・ハサ干し
下／籾干しも最近ではめずらしくなった



谷崎 勝祥 71歳

編集部イチオシ! BOOK & Movie



MOVIE



『降りてゆく生き方』
上映予定などについては、
下記公式ホームページをご覧ください。

●公式ホームページ
<http://www.nippon-p.org>

武田鉄矢さん演じる団塊世代の営業マンが主人公。第二の人生を夢見て地方都市のリゾート開発に乗り込むものの、村の人々とのかわりの中で、現代に生きる人々の生きる意味を問い直し、つながりながら生きることの重要性を感じ始める。都会での経済至上主義の生き方を捨てて、「いのち」と「こころ」が結ばれた温かな村で生きる決意をする、「頑張らない生き方」と自然との共生について考えさせられるメッセージ映画です。ロケ地に使われた松之山新田の棚田には、映画を見た人々が大勢訪れるようになったとか。映画は住民団体による自主上映のみですが、全国から上映の依頼が絶えず、その輪が広がっています。



BOOK



¥800(税込)
木楽舎
2009年11月発行

『ソトコト2009年12月号』

ロハスピーブルのための快適マガジン「ソトコト12月号」の「ニッポンのお米」特集で、棚田ネットワークの茂木プロジェクト「わくわく稲刈り体験」と中島代表の棚田オーナー制度についての解説記事が3ページフルカラー(p.80~82)で紹介されました。その他に棚田米の食べ比べページでは、法人会員の成川米穀と上田米穀店の棚田米も紹介。必見です!

青柳健二の 世界の棚田から

イラン・カスピ海沿岸

イランというと砂漠のイメージが強く、棚田とは縁遠い感じがするが、実は、カスピ海沿岸地方は大水田地帯であり、山間部には棚田もある。「日本からわざわざ田んぼだけを見に来るはずがない」と、イランに限らず、アジアで棚田を探し始めると、現地の人たちに必ず疑われるので、私は、棚田のポストカードを用意していった。「棚田の美しさ」を理解してもらえれば、私のスパイ容疑はすぐに晴れる。

ところで、カスピ海沿岸地方は、コメの年間消費量も90kgと多く、コメの国だが、最近では他のアジア諸国と同様、食文化が欧米化し、コメ離れが進む。

「欧米は嫌いだ」という人は多いが、かといってイスラムの伝統に縛られるのも嫌だという若者のいらだちが感じられる。

○青柳健二

1958年山形県河北町生まれ。学生時代、欧州を旅行中に偶然本屋で見た写真集に興味を覚え、大学卒業後写真を独学。アジア各国取材旅行する中で、中国・雲南省で偶然出会った棚田の美しさに衝撃を受け、以来10年以上、日本・アジア・アフリカの棚田を撮影し続けている。著書に『日本の棚田百選』（2002、小学館）、『アジアの棚田 日本の棚田』（2004、平凡社）、『棚田を歩けば』（2007、福音館書店）など。

URLは <http://www.asia-photo.net/>



田んぼの生き物たち

第17回

フユイチゴ



写真：桐原真希

今年は、私たちが族が鳥取に住み始めて丁度10年になります。そのためか、どうしても生き物の話題が西日本系に偏ってしまいます。今回も西日本によく見られる里山のスイーツです。

谷間の田んぼに面する斜面によくツルをはわせているフユイチゴ。私の印象では、人が田んぼや畑の維持管理をするために周辺の草刈りが行われているところに目立って生えているような気がします。ササ藪ができてしまうと、フユイチゴは居心地が悪くなるようで、藪の発達と同時に少なくなっていくようです。

その名の通り、冬に実をつける小さな木いちご。一見草の仲間のように見えますが、図鑑では樹木のほうに分類されています。

たほうがいいでしょう。美味しいものは、つまんだらすっと実がとれます。それが食べごろの証。
店頭にはほとんど並ぶことのないワイルドベリー、いつまでも里の隣人であって欲しいですね。

（自然観察指導員 桐原真希）



棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

石積みが土坡にかわった 安芸山中の棚田

広島県東広島市内



八本松からバスで内へ

東広島市は、名前が示すように広島市の東隣にあり、近年大学が移転してくるなど広島市の拡大による発展の著しい都市である。内は大字の地名、中心市街地の北西15^{キロ}の山間部に位置し、内川に沿う河谷に塚土・隠地・東正・寺東・横山・中村・寺地の7集落が点在している。内を知ったのは2004年7月、NHKの「クローズアップ現代」で過疎・高齢化して放棄の進む農地を農事法人に集約、保全を図っている事例として紹介されたことによるもの。放棄された農地の担い手や受け皿の確保は、中山間地域での重要な課題であるため、反響の大きな番組であった。

2009年3月初旬、内を訪ねるために現地に交通事情を問い合わせると、山陽本線の八本松駅から隣の集落までバスの便があるが数本しかなく、利用するには近くの町に前泊しなければならないことがわかった。そこで、広島市内に宿をとり、翌朝7時17分発の上り電車に乗り八本松に向かう。

八本松からはかつての志和町を循環する芸陽バスに乗り。バスは駅前から国道2号を広島方面へ向かい、宗吉の交差点を右折、県道46号を北上する。やがて低い峠を越え、山陽自動車道の下を抜けて、広島市の市街地を貫流する太田川の上流の一つ、東川の谷底平野に出る。なだらかな山に囲まれた細長い平野、山際の集落、前面にひろがる水田、中央を流れる川のある風景は、中国地方でよくみられる景観である。

下兼持のバス停で下車、志和東公民館を左にして北へ向かい、すぐに右折して市道に入る。道はほぼ直線に近く、東川の支流内川の左岸沿いを緩やかな坂になって東へ延びている。(注1) 谷底平野は、やがて山が迫る狭窄部を形成、その上流は平坦地のない河谷になっている。河谷は北に張り出した弧を描き、幅150〜300メートル、長さ3^{キロ}に及び、このなかに大字内の7集落が点在、斜面には棚田が拓かれている。

内の七集落の棚田

狭窄部から右岸の集落のなかを縫う旧道を辿ると、河谷入口にある集落が塚土である。数段の棚田の上に石垣を築き、さらにその上に漆喰塗りの土塀を巡らした立派な民家が迎えてくれる。民家の屋根はどの家もレンガ色の石州瓦。棚田は山側の民家と河床との間の7分の1〜8分の1の斜面に3〜4段ほどひらかれている。形は長方

形、内川に平行する長辺が80^{メートル}、短辺30^{メートル}、その規模から圃場整備された棚田であることがわかる。(注2)

塚土の対岸、左岸にある入口の集落が隠地であり、民家までは塚土と同じような棚田が横たわっている。ただ異なるのは内川の主谷に直角に交わる支谷が南に向かって延びていることだ。そこには長辺が40^{メートル}ほどの棚田が10段近く積み上がっているのがみえる。(注3)

塚土の上流にある集落が東正、入口に神社があり、階段下から河岸まで3段の棚田、形や大きさは塚土の棚田とほぼ同じ。河岸

■ なかしま みねひろ 中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田―保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。



機械を入れるために整備した棚田。

には「どんど公園」と名付けられた四阿風^{あずまや}の建物がたつ広場、内川には灌漑用の堰が設けられ、堰上げられた水が大きな音をたてて流れていた。右岸は山が迫り、棚田の占める余地はなく崖になっていた。

道は寺東から急勾配となり、50[㍎]ほど上ったところに横山の集落がある。家屋は主谷と、内で最も規模の大きい支谷に分かれて分布している。主谷には長辺が川の流れと直角に交わる棚田が十段近く並んでおり、一枚が10[㍎]30[㍎]はあると思われる大きさである。一方、支谷の谷幅は120[㍎]300[㍎]、主谷に劣らない規模。その入口付近には一辺が40[㍎]60[㍎]の正方形に近い棚田が上流に向かって段になり連なっていた。横山から中村へ向かう道沿いには、圃場整備される前の内の景観を偲ばせる石積み^{いしづみ}の棚田が数段残っていた。石積みの高さ

は0・5[㍎]1・5[㍎]、一枚の広さは2[㍎]ほど、棚田地域で見慣れている大きさである。

中村は、県道と家屋の間に規模の小さい棚田が数段、道路と河岸の間には数枚の棚田、左岸は山が迫り崖になっている。東端の集落寺地は標高が390[㍎]、内の入口に当たる狭窄部の標高が250[㍎]、したがって140[㍎]ほど上ってきたことになる。寺地の民家を正面にして眺めると、中央に小川、その両側に十数段、段高2[㍎]3[㍎]、一辺50[㍎]の正方形に近い棚田が並んでいる。最上流部の寺地が最も谷幅が広くゆつたりとした感じがするのも不思議。これまで歩いてきた内全集落は戸数153戸、棚田面積63[㍎]、比較的耕作放棄地の少ない里山という印象である。

農事法人ファーム・ウチの誕生

農事法人ファーム・ウチ(Farm Uchi)の事務所で、事務局長の高木昭夫さんに会うことができた。高木さんは57歳、高校を卒業して会計事務所勤務した後、地元の製材所に移り会計を担当、水田70[㍎]、圃場整備後は40[㍎]を耕作する兼業農家。39歳の時に市議、55歳で県議になり、現在内土地改良区の理事長、内地区の消防団長、寺東の農区長も兼ねる地域のリーダーである。

農事法人を立ち上げる出発点となったのは圃場整備にあつたという。1980年代後半、青年団が市長に市道の整備を陳情したところ、圃場整備事業を行えば同時に道路整備も実現すると教えられ、その推進母体として檀家寺である西方寺の住職を会長にして「内区をよくする会」を設立。住職は、浄土真宗門徒の結束力の強さを頼りにして、檀家の各農家をまわり短時間で事業の同意をとりつけた。(注4) これにより、一枚が2[㍎]5[㍎]の石積み^{いしづみ}の棚田から一枚が20[㍎]30[㍎]もある土坡の棚田にかわり、同時に農道や進入路も整備され、大型機械の使用が可能になったのである。

このような圃場整備により、将来の担い手不足を見越し、農地を集積させて保全を図る経営体として農事法人の設立が考えられ、その準備委員会が1997年6月に発足した。委員会では、箱口令^{かんぐちけい}を敷いて慎重に作業を進め、各農区での説明会を重ね

ね、11月に設立総会を開催することができた。その結果、内地区の農家130戸の68%に当たる88戸が組合員となり、利用集積面積37・8[㍎](集積率61・4%)、資本金378万円(10[㍎]当たり1万円の出資金)の農事法人ファーム・ウチが誕生したのである。これを運営するのは組合長、事務局長のほか集落を単位とする7農区の代表者7名、合計9名の理事であり、同時に機械類のオペレーターとして作業に従事するスタッフにもなっている。(注5) これに対し、組合員は10[㍎]当たり小作料七千円、畦畔管理(草刈)料一万七千円、水管理料三千円を受け取り、飯米・縁故米は30[㍎]袋八千円でファーム・ウチから購入している。

2008年度の損益計算書を見せて戴くと、収入は約四千万、その内訳はイネ(コシヒカリ)二千八百万円、飼料イネ二百八十万円、役務収益(地区外の受託作業)百万円のほか、担い手経営安定対策八十万円、中山間地域直接支払二百五十万円、産地づくり交付金三百万円、耕畜連携交付金百万円などの営業外収益が主なもの。とくに法人となり国から受ける対策費や交付金などが大きな助けになっていると仰しやる。

一方、支出は小作料、畦畔管理料、水管理料、種苗費、肥料・農業費などの生産原価が二千五百万円、役員報酬と労務費六百七十万円などが主なもの。理事の役員報酬と組合員の労務費は作業に出役した労

棚田博士 は今日も行く!

今回の棚田へは...

広島県東広島市 内の棚田



内の棚田へのアクセス

【自家用車】 志和ICを出て左折後すぐに志和インター（北）交差点を右折→栴坂（交差点）を左折し県道46号線に入る→志和東公民館を左に見て進み、すぐに右折→右に朝日ゴルフクラブを見ながら進む 約15分

【公共交通】 JR八本松駅からタクシーで15分

※バス利用の際は、芸陽バス志和堀（循環）で下車持下車→志和東公民館を左に見て進み、すぐに右折→右に朝日ゴルフクラブを見ながら徒歩30分、ただし数本しかない。

賃として支払われるもので、時給千円円で計算される。組合長、事務局長がおよそ百万円、専業農家の理事が六十〜七十万円、兼業農家の理事が二十〜三十万円を得ているとのことである。

当期利益は約八十万円、経営的にはまだゆとりがあり、米価が60円当たり一万二千円になっても持ちこたえることができる。自信満々の表情、頼もしいかぎりである。

内では、耕作放棄地が目立たず、年7回も行われる草刈作業によって美しく刈り上げられた土坡になっているのも、ファーム・ウチの活動で実現したものといえることができるであろう。

*注1

左手には志和東の集落がひろがり、学校や郵便局、病院、老人介護施設などがあり、かつては町の中心をなしていたものと思われる。

*注2

一枚の面積が20坪〜30坪、法面の土坡にはオオイヌノフグリ・タネツケバナ・ナズナ・ホトケノザなどの小さな春の草花が咲いていた。土坡の高さは2〜4メートルあり、草刈りの大変さが想像される。

*注3

支谷入口の斜面は、山砂の採取により植生がはき取られて崖になり無残である。内では各所で花崗岩が風化してできた山砂を採取している現場がみられた。

*注4

事業は県営事業として1989年に着手され、事業費の90%を国・県・市、10%を地元が負担、2001年に完成した。受益者である農家は10坪当たり約20万円の負担になったそうだ。

*注5

理事9名のうち3名は定年退職後の専業農家、6名は兼業農家で、高木さんも兼業農家のパートタイマーとしてトラクターに乗っているそうだ。

棚田保全活動発展のための情報交換・研修会

を開催しました

11月15日（日）、棚田フェスティバルの翌日。東京・恵比寿で、「棚田保全活動発展のための情報交換・研修会」を開催しました。棚田フェスに出展した全国14カ所の棚田保全団体の皆さんと、各地の調査に携わっている棚田ネットスタッフなどが参加。

午前中は、3つのテーマ解説。まず「各地で棚田のオーナー制度が実施されているが、それを実際に維持管理している地元の組織はどうなっているか」に着目した中島代表の講義。一口にオーナー制度といってもかなりの違いがあることが、豊富な実例とともに紹介されました。「どんなオーナーに来てほしいのか、オーナー制度で何をしたいのか、よく検討して決める事が大切」という話でした。こういう系統的な分類を、初めて聞く人も多かったのではないだろうか。

次に、棚田ネット広報担当の高桑さんと久野さんのチームが「普段着の情報発信」というタイトルで発表。最も身近な「イベントチラシ」からホームページ、ブログに至るまでの様々な情報発信・広報ツールの特徴を整理し、それぞれがどんな情報発信に向いているかをあらためて解説しました。

最後に、本業の仕事では地域づくりや特産品販売の相談にものっている清水さんが棚田米の可能性について「消費者は棚田米の自然環境や、減農薬・天日干しなど農家の努力を評価して購入してい

る」「棚田米のブランド化には「ストーリー」「歴史」「理念」が有効」と解説。進行の關係で予定時間の半分近くに短縮されてしまったため、皆さんもつと聞きそうでした。

昼食後は3つのグループに分かれてディスカッション。自己紹介から始まり、どんな活動をしているか、どんな悩みを持っているかなどを披露。こういった会合には初参加の団体も多く、「自分たちのところにはボランティアがたくさん来てくれている」「自分の地域は大学と提携している」「うちは外国人も来ている」などと、和やかな自慢合戦に笑い声もあがりました。「今度そちらへ視察に行きたい」「いつでも歓迎しますよ」などの名刺交換もあつたようす。

遠くから来ている地域は帰りの交通機関の制約もあり、名残を惜しみながら午後3時過ぎに解散。次の機会には、希望者は夜なべ談義で語り明かせる場を持ちたいなあと思ひました。（高野 光世）



上/グループディスカッションの様子
右/中島代表の講義



※今号は調査プロジェクトレポートはお休みさせていただきました。

棚田ネットワーク Project & Topics



Project 岐阜県恵那市 棚田ビオトープ プロジェクト

稲刈りと棚田ビオトープの紹介



棚田ビオトープの紹介

日本経済新聞の平成21年10月10日(土)夕刊に「棚田に戻る多様な生物(景色/移ろう時代)」として棚田ビオトープの活動が掲載されました。本活動初の全国紙掲載ということで、多くの方々から励まし(?)のメールなどいただきました。

9月30日(水)が雨天であったため10月3日(土)のオーナー稲刈りの日に、溪流沿いの棚田ビオトープも稲刈りをしました。上段はミネアサヒ、中段はカンニホ(赤米)。天候も良くこれくらい小さい面積だと、気持ちよく作業ができます。そして10月24日(土)に開催された棚田オーナー制度の収穫

祭が終わった後、午後1時から棚田ビオトープの紹介をしました。参加者は主にオーナーの方々ですが、モロッコからのJICA研修員で岐阜県立国際園芸アカデミーで研修をしているメリミさんも、フランス語の通訳者を介して聞いていました。ビオトープの紹介の後、質問の時間を設けたところ、参加者から活発な質問や情報提供がありました。市民の生物多様性についての関心の高さが感じられました。

12月19日(土)10時から森林近くの棚田ビオトープの拡張整備をします。ぜひ、ご参加ください。

(相田 明)

Project 岐阜県茂木町 茂木プロジェクト

活動拠点・岩ノ作棚田の昨今



左/リンドウ 右/タガメ

たくさんの生きものたちが賑っていた岩ノ作棚田も、静かな休息の季節を迎えました。早春から晩秋まで、私たちを楽しませてくれた多くの生きものたちも、あるものは子孫を残して一生を終え、あるものは来るべき春に備えて冬ごもりに入っています。シンボルのホトケドジョウも元気に冬越し中です。最後まで可憐な花を覗かせていたリンドウも、すっかり見えなくなりました。

今年も多くの生きものたちとの出会いがありました。中でも水生昆虫の王者といわ

れる「タガメ」の増加は、これまで続けてきた活動の大きな成果だと思います。

従来からの生きもの調査に加え、今年から「体験稲作り」を始めたことで、活動の輪が大きく広がりました。10月に稲刈りをした「もち米田んぼ」の米も調整が終わり、餅になるのを待つばかりです。餅つきは来年、2月13日(土)の予定です。皆さまお誘い合わせのうえご参加ください。

(安井 一臣)

Project 大阪市中央区 大阪プロジェクト

大阪棚田フェスティバル



トークセッションの様子

11月22日、第1回大阪棚田フェスティバルを開催しました。大阪プロジェクトの一員「棚田むすびの会」の主催で、7つのご出店と予想を上回る60人余りのご来場をいただきました。

出店は棚田ネットワーク、棚田LOVER'sなど保全団体のPRのほか、棚田米、米粉を使ったお菓子、パン、観葉植物の販売などで賑わいました。

メインイベントは棚田ネットワーク代表の中島先生、いこま棚田クラブ代表の出口育宏さん、三重県伊賀市の棚田農家富井紀寿さんによるトークセッションで、テーマは「棚田と女性」。こんなテーマは初めて、

と最初は戸惑っておられた中島先生でしたが、棚田と女性の関係を見事に解明され、会場の大きな反響を呼びました。また会場内の交流コーナーでは、中島先生とそのファンの皆さん、ネットを見て初めて来られた若い女性と棚田ボランティア、農家さんと保全団体など様々な出会いと交流が生まれ、「じゃあ今度棚田行きますね」という声も聞くことができました。

これを機会に関西の棚田保全の輪が広がることを期待しつつ、ご支援、ご協賛いただきました棚田ネットワークの皆様にご協力をお願い申し上げます。

(中崎 義志晴)

Topics 静岡県静岡市 棚田サミットイベントに参加



松崎町・石部棚田の方がサミットの呼びかけ

11月17日、静岡県静岡市のグランシップで行われた「第16回全国棚田(千枚田)サミットイベント」に参加しました。

このイベントは、棚田サミットが来年(2010年)10月22・23日に伊豆松崎町(石部棚田)で開催されるにあたって、サミットの開催を広く県内に周知・PRすることと、県内の棚田保全活動について、多くの人に知ってもらいたいという思いから企画されたものです。

プログラムは、石部棚田の保存会会長・高橋周蔵氏による、棚田の復田からサミット開催

に至るまでの活動事例紹介や、ここでボランティア活動を展開する富士常葉大学の活動紹介、菊川市の上倉沢棚田などで活動する静岡大学をはじめとする研究室・ゼミの発表など多彩。内容も、生態系の研究から食文化、そして「棚田に学生をひきつけるための棚田マーケティング」まで様々。このような、「棚田」に魅力を感じ、大切にしたいものとして捉えている若者達とも連携を取ることで、保全への新しいアクションも生まれるのではないかと思います。

(久野 大輔)

坂折棚田石積み塾

「日本の棚田百選」に認定されている岐阜県恵那市・坂折棚田。その素晴らしい景観を後世に残そうと、

3年前から「坂折棚田石積み塾」が開催されています。

今年はその取り組みが評価され、第5回棚田学会賞を受賞しました。塾の内容は、約四百年の歴史を有する坂折棚田の石積みの中で、傷んでいる石積みを崩し、新たに積み直しをするというもの。例年、11月下旬に一泊二日程度の日程で、

石積み技術を伝承している地元の石工が指導にあたり、昔ながらの石積み技法の伝承や石積みに関する講座を実施します。また、5回以上参加した受講者で塾長が認められた場合、

「石積み技工士」(仮称)の認定証が交付されます。

■受講料(講義資料代、交流会費等) 五〇〇〇円

※宿泊者は別途費用が必要

○後援…岐阜県(恵那農林事務所)、恵那市ほか

お申し込み・お問い合わせは

NPO法人 恵那市坂折棚田保存会

岐阜県恵那市中野方町七八二一

・電話 〇五七三ー三三ー二〇三三

江戸時代の石工集団「黒嶽」が
積んだといわれる石積み



棚田オーナー制度にも取り組んでいます。



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報紙「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	3,000円
学生会員	2,000円

法人会員も募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまも募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。是非ともご入会ください。お待ちしております。(詳細はお問い合わせください)



編集部から

今年の師走は忙しい

早いもので2009年も残すところ僅か。毎年11月中旬の東京棚田フェスティバルを終えると、事務局はホッと一息。のはずが、今年は違う!去年は参加しなかった東京ビッグサイトで開催されるエコプロダクツ展(12月10、12日)のテーマゾーンといわれる企画枠への出展が決まり、与えられた10m×26mという広大なスペースをどう埋めるか、スタッフ一同んやわんやの大騒ぎ中です。

また、今年から始まった維持会員特典の効果か、維持会員が増えて、特典となる茂木町岩ノ作の棚田の新米を50kg以上バックして発送。そこに会報の編集がぶつかり、まさに今年の事務局は師走を絵に描いたような状況です(笑)。でも、それもこれもとても嬉しい悲鳴です。

また来年も、皆様のご協力何卒よろしくお願いします!

ウェブサイトも見てください!

棚田の基礎知識や、棚田ネットワークの活動内容、イベント情報、ブログなど、盛りだくさんの情報を発信しています!是非のぞいてみてください!

www.tanada.or.jp



ブログも
随時
更新中!



2009年12月号 Vol.68

発行



特定非営利活動法人
棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp